

邑久オアシスクラブは働くお母さんお父さんの強い味方 子どもの成長・発達にかかせない生活の場

■児童クラブの生活はいまや学校よりも多い生活時間

児童クラブの生活は、子どもが「ただいま！！」と帰ってきた時から始まります。

学年や曜日、その日の学校の事情によって下校時間は異なります。春・夏・冬休みのような学校の長期休業日や学校の行事による振替休日などは、朝から一日保育になります。

小学校で子どもたちが過ごす日は約200日、児童クラブで過ごす日は約300日とされています。つまり放課後や長期休暇の時間の方が学校の時間よりも多いのです。

いまや児童クラブで過ごす時間は、家族が帰ってくるまでの待ち時間、ではなく、大切な生活の時間なのです。

オアシスでは、遊びや宿題、生活力のつく当番活動など、デイリーに沿った充実した生活が送れます！

■継続し、安心した毎日を過ごすために

行っても行かなくても、いつ帰ってもいい場所であれば、一定の時間をそこで過ごすことはできても、放課後の毎日の生活の安定した場所にはなりません。また、学校の長期休みのときには継続して生活できる場がとても重要です。

体調の悪いときはゆっくり休みたいし、辛いことがあったときは、自分の事を受け止めてくれる大人が側にいてほしいものです。お昼のお弁当を食べたり、おやつも必要です。

親たちも子どもがどこで何をしているのか分からなくては、安心して働くことができないでしょう。共働きやひとり親家庭の子どもたちには、親が働いていて家庭にいない間、子どもの事をしっかり受け止め一緒に活動する大人（支援員）の援助と、毎日安心して生活できる場所が必要なのです。

■「放課後の生活」はどうなっているの？

小学生の放課後の生活の場は、家庭で過ごす以外にも、児童館や塾・おけいこ、スポーツ少年団、子ども会など色々あります。特に児童クラブでなくてもこれらの場所を活用すればよいのではないかと思います。忙しい生活を送っています。

でも、本当にそうでしょうか？

■特に低学年の子どもたちは…

いっときの留守番とは違い、毎日一定の時間を自分たちだけで生活するにはさまざまな困難があります。

事故やケガ、病気などに子どもだけで十分対処することはできませんし、友達とのトラブルや学校でのさまざまな出来事を、自分ひとりで受け止めるのが難しいこともあります。

身の周りや生活時間のコントロールなど、自己管理しなければならないことが生活の中にはたくさんあります。

そしてとても残念なことに今日の地域社会は子どもにとって健全な環境とは決していえず、むしろ子どもの健やかな発達を損なう要因が増えてきています。

第2施設が完成しました

邑久小学校区の学童保育の利用需要は年々高まっています。

邑久オアシスクラブでも利用定員を上回る申し込みがあり、新しい施設を作ることとなりました。

令和5年度第2施設が完成し、より多くの児童の受け入れが可能となりました。

邑久オアシスクラブ
瀬戸内市邑久町山手 23-2

0869-24-8125



所在地：瀬戸内市邑久町山手 23-2

※見学は随時受付中です。